

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2019年												2020年																
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 ~6日	9月 ~13日	9月 ~20日	9月 ~27日	10月 ~4日	10月 ~11日	10月 ~18日	10月 ~25日	11月 ~1日
カンピロバクター	56	46	78	65	87	128	102	107	157	62	49	91	42	46	55	54	92	177	241	189	36	24	16	21	18	28	25	38	23
病原性大腸菌	85	81	77	69	51	59	51	37	85	46	41	39	22	34	39	30	24	63	60	76	19	15	10	8	10	8	4	11	9
腸管出血性大腸菌	0	0	0	0	0	0	0	1	3	3	0	0	1	0	0	0	1	4	0	2	0	0	1	0	0	2	0	0	0
サルモネラ	5	3	11	6	3	11	5	12	18	9	13	13	4	1	2	4	10	7	14	29	4	3	2	7	0	4	1	2	3
黄色ブドウ球菌 MSSA	10	9	12	13	14	24	11	17	15	8	10	26	6	20	11	3	9	15	15	20	7	2	1	3	2	2	3	4 (5)	5
黄色ブドウ球菌 MRSA	22	16	22	14	11	12	18	12	15	10	10	10	10	11	17	8	14	14	11	17	1	1	6	1	0	3	1	4	1
腸炎ピブリオ	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	1	0	0	3	1	2	4	1	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	5	1	1	0	0	0	0	0	0
ロタウイルス	2	3	2	9	4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	0	1	0	1	3	2	1	0	1	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス	23	23	11	11	2	5	0	1	1	0	6	19	10	14	6	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0

* ()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和2年第44週(10月26日~11月1日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	2	結核	2						1	1
三類	2	腸管出血性大腸菌感染症	2						1	1
四類	5	重症熱性血小板減少症候群	1	1						
		日本紅斑熱	3			1	1		1	
		レジオネラ症	1	1						
五類	3	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	2					1		1
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1					1		
指定	6	新型コロナウイルス感染症	6					6		

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市
西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町
北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

1 新型コロナウイルス感染症

第44週に6件の報告がありました。全国では10月以降微増傾向が続いています。報告数が増加している地域もみられますので、出かける際は目的地の感染状況を確認しましょう。引き続き、「3密」の回避、マスク着用、手洗い、換気など、感染予防、拡大防止対策を徹底することが大切です。

2 日本紅斑熱

1件の報告があり、今年の累計は4件(昨年同時期は1件)となりました。日本紅斑熱は、日本紅斑熱リケッチアを保有するマダニに刺咬されることで感染します。2～8日の潜伏期間を経て発症し、主な症状は、発熱、発しんで、ダニの刺し口がみられることもあります。

また、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)やつつが虫病も、ダニ類が媒介する感染症です。これらの感染症を予防するため、次のような対策をとることが重要です。

【ダニに咬まれないためのポイント】

- ・山や草むらに入るときは、長袖・長ズボンや帽子の着用、足を完全に覆う靴を履くなど、肌の露出を少なくする。
- ・屋外活動後は入浴し、ダニが付着していないかチェックする。

【ダニに咬まれたときの対処法】

- ・ダニが吸着していた場合は、皮膚科を受診し、除去してもらいましょう。
- ・発熱等の症状が出た場合は、早めに内科等を受診しましょう。

【参考】ダニ媒介感染症(厚生労働省)

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164495.html>



フトゲチマダニ
 国立感染症研究所
 昆虫医科学部



山や草むらに入るとき
 の服装

■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号
フィレン	インフルエンザ	-	-	0.31			小児科	流行性耳下腺炎	-	-	0.38		
小児科	咽頭結膜熱	4	0.17	0.32			眼科	RSウイルス感染症	-	-	0.68		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	13	0.54	1.93			眼科	急性出血性結膜炎	-	-	0.03		
	感染性胃腸炎	34	1.42	6.52			眼科	流行性角結膜炎	1	0.13	0.63		
	水痘	3	0.13	0.50			基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-		
	手足口病	15	0.63	1.24				無菌性髄膜炎	-	-	-		
	伝染性紅斑	-	-	0.25				マイコプラズマ肺炎	-	-	0.26		
	突発性発しん	8	0.33	0.30				クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-		
	ヘルパンギーナ	7	0.29	0.22			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-			

急増減 ↑ ↓ 前週と比較しておおむね1:2以上の増減

増減 ↗ ↘ 前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減

微増減 ↖ ↙ 前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減

横ばい ⇐ ⇨ ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
4	日本紅斑熱	1	4	女性(60歳代)
5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	12	男性(70歳代)
5	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	7	男性(50歳代)

■新たに判明した病原体検出状況

(検査:広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
手足口病	発熱(37.3℃) 丘疹 口内炎	2	男	2020/09/16	咽頭拭い液	コサッキーウイルスA16型
手足口病	発熱(38.5℃) 丘疹 口内炎 嘔吐	1	不詳	2020/09/22	咽頭拭い液	コサッキーウイルスA16型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載